

第3学年 音楽科学習指導案

本授業の主張点

本時では、児童がこれまでに学習した旋律の上がり下がりやまとまり（フレーズ）、曲の山などの知識を活用しながら、歌詞の内容や曲想に合わせた表現の仕方について思いや意図をもつ姿を目指します。

1 題材名 曲の感じを生かそう 教材曲「メヌエット」、「帰り道」、「にじ」、「山のポルカ」

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、旋律と曲想との関わりを考えて鑑賞や表現を深めることをねらいとしている。そこで、旋律の音の上がり下がり等の曲の特徴を捉えやすい3つの楽曲と、児童が幼稚園、保育園や1年生の時から歌い、親しみのある「にじ」（中川ひろたか作曲）を用いる。

鑑賞曲の「メヌエット」は、主な旋律がバイオリン1挺で演奏され旋律の動きに着目しやすく、滑らかで優雅な感じを醸し出す部分と、短い音が跳躍して軽やかな感じを醸し出す部分の対比により、旋律の特徴と曲想との関わりを感じ取りやすい楽曲である。歌唱曲の「帰り道」は、児童にとって身近である題材を歌詞にしており、学校や遊びからの帰り道を想像し、共感しながら歌唱に取り組むことができる。旋律の反復や伴奏の変化から曲想の変化を感じ取るとともに、歌詞の内容と曲想との関わりについて気付きやすい。そして学習した内容を生かし、「にじ」の歌唱に取り組んでいく。器楽で取り扱う「山のポルカ」は、8分音符を中心とした軽やかなリズムの旋律で、リコーダーの演奏の仕方と曲想との関わりについて学習できる曲である。

(2) 児童について

本学級の児童は、これまで旋律の音の上がり下がりや、リズムの反復と変化、曲の山などについて学習してきている。また、授業のワークシート記述から、リズムカルな楽曲をのびのびと元気な声で歌うことを好んでいる児童が多いことが見られた。その一方で、曲想を捉えて自身の歌い方や演奏の仕方について思いや意図を持ち、ふさわしい表現ができるまでには至っていない。本題材では、これまでの学習を生かしながら曲想やその変化を捉え、曲全体を味わって鑑賞や表現を深めていく。

(3) 指導について

指導に当たっては、リズムや旋律の特徴を捉えやすいよう、主な旋律を歌ったり、音の上がり下がりに合わせて手を動かしたり、リズムを手拍子したりするなどからだ全体を動かしながら鑑賞を行う。児童の感じ取ったことと音楽を形作っている要素とを結び付けるため、板書で整理したり、問い返しや価値付けをしたりしていく。歌唱や器楽を行う際には、表現に対する思いや意図をもつことができるよう、その楽曲の特徴をしっかりと捉えさせたい。そのため、丁寧に教材曲と出会うようにする。階名唱をしたり、リズム打ちをしたりして繰り返し歌ったり演奏したりする場を設けることで、旋律の音の上がり下がりやリズムの反復、変化に気付くようにし、曲想と関わっていることを確認していく。本時では、歌詞の内容や曲想に合った歌い方の工夫を可視化するために拡大楽譜を用意し、グループや学級全体で共有できるようにする。「帰り道」で曲想に合った表現の仕方を工夫する学習を、自分たちが慣れ親しんできた「にじ」の表現に生かし、さらにリコーダーの演奏の仕方の工夫へとつなげたい。

3 題材の目標

曲想と音楽を形作っている要素との関わりを理解し、曲想の違いを味わって聴いたり、表現の仕方について思いや意図をもったりすることができるようになる。

4 題材の流れ

第一次（1・2時）…曲想の違いを味わって「メヌエット」を聴く。

第二次（3～5時）…歌詞の内容や曲想を生かして「帰り道」、「にじ」を歌う。

第三次（6・7時）…曲想を感じ取って「山のポルカ」を演奏する。

5 題材の評価規準

- ア 音色、リズム、旋律や歌詞の内容と曲想の関わりに気付き、思いや意図を表現するための技能を身に付けている。 【知識・技能】
- イ 旋律の反復や変化が生み出す曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現について思いや意図をもったりしている。 【思考・判断・表現】
- ウ 曲想の違いを味わって聴いたり、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫して歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の指導（4／7）

(1) 目標

歌詞の内容や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 評価基準

歌詞の内容や曲想を生かすための表現の仕方について、思いや意図をもっている。 【思・判・表】

(3) 展開

学習活動と児童の反応（・）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 前時を振り返ったり、自分たちの歌声を聴いたりして本時の学習を知る。（5分）</p> <p>・この曲はさみしい感じがしたよ。 ・アは思い出を振り返っている感じがしたな。</p>	<p>1-(1) 前時に学習した内容を提示したり歌ったりしながら、曲の雰囲気や特徴について振り返る。</p> <p>1-(2) 自分たちの表現が歌詞の内容や曲想に合っているかを考えるよう促す。</p>
歌詞の内容や曲の感じを生かして歌おう	
<p>2 グループに分かれて表現の工夫を話し合い、歌に生かす。（22分）</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) グループで話し合っただけ考え、練習する。</p> <p>・アはやさしい声で歌うといいと思う。 ・イから盛り上げよう。 ・リズムの繰り返しがあるから一つずつ上がっていく感じにしよう。 ・うまくいかないな、もう少しやさしく歌ってみよう。</p> <p>(3) グループ同士で工夫を交流する。</p> <p>・強弱のつけかたが少し違うね。 ・やっぱり私たちがイは盛り上げたいな。</p>	<p>2-(1) 確認した曲の特徴を踏まえ、曲想に合うようにするにはどう表現すればいいか考えるよう促す。</p> <p>◆曲想を捉え、それを生かすための表現の仕方について自分なりの思いや意図をもっているか。（発言・ワークシート）【思、判、表】</p> <p>B- 曲想を生かし、表現の工夫を考えている。 → 強弱、フレーズ、歌詞の内容他の視点を与える。</p> <p>C- 表現の仕方について思いや意図をもてていない。 → 友達の考えを参考にしたり、視点を与えたりする。</p>
<p>3 歌い方の工夫をまとめていく。（10分）</p> <p>・アは落ち着いた感じだから、優しく歌いました。 ・曲の山だから盛り上げました。</p>	<p>2-(2) 児童の思いや意図を確認しながら、技能面での助言を行う。</p> <p>2-(3) 友達の考えを知り、自分たちの工夫に生かすよう促す。</p> <p>3 歌い方の工夫を全体で共有し、曲想と結び付けて価値付けしていく。</p>
<p>4 歌詞の内容や曲の感じを生かして歌う。（5分）</p> <p>・自分なりの思いや意図をもって表現の工夫をしようとしている。</p>	<p>4 活動を通して改めて考えた自分なりの表現の工夫をするよう促す。</p> <p>5-(1) 歌って感じたことや、曲について感じたことを問う。</p>
<p>5 本時までの学習を振り返る。（3分）</p> <p>・曲の感じに合わせて歌えて気持ちよかった。 ・ゆったりしてやさしい気持ちになった。</p>	<p>5-(2) 自分の表現についてうまくいったことや課題をあげるよう促し、次時の学習へとつなげる。</p>